

第6回地域政策懇談会（東尾張地区） 意見交換の概要

平成25年7月3日（水）午後3時～4時30分
愛知県自治センター 4階 大会議室

（瀬戸市 増岡錦也市長）

- ・ モノづくり愛知の基礎を作ったのは、一宮の繊維産業や瀬戸の窯業といった尾張の地域産業である。課題は、シンクロトロン光センターなどの優れた資源を、いかに地場産業の育成に活用していくことができるかである。
- ・ この東尾張は地盤的にも非常に災害に強い地域である。今後、「南東部開発」や「尾張丘陵開発」といった地域開発を活用し、持続可能な災害に強いまちづくりを進めていく必要がある。
- ・ 瀬戸市と県と一緒に計画した「南東部開発」について、そろそろ具体に入って進めていきたい。当時、計画では、新住構想の中で、名古屋瀬戸道路をつくり、リニモを延伸させて、素晴らしい住宅地にするというものであった。これはぜひ忘れないでいただきたい。

（春日井市 伊藤太市長）

- ・ 春日井インター周辺は、この地域の経済が発展をする上で重要な地区のひとつである。国道155号バイパス（北尾張中央道）の春日井インターにつながる部分が早く開通すれば、大きなインパクトになる。県と市が一体となり、スピード感を持って進めていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。
- ・ 市町村への権限移譲については、財源の移譲をセットで行うことによって、結果的にお互いスリムになり、サービスも向上する。人材育成にもつながるので、よろしくお願ひする。

（小牧市 山下史守朗市長）

- ・ 小牧市民の多くが通勤・通学先としている名古屋市の防災面での取組状況は、大きな関心事項である。県民への情報発信はもちろん、災害時の避難体制など、県が主導的な役割を果たし、安全確保に努めていただきたい。
- ・ 県営名古屋空港については、コミュニタ航空の一層の振興とともに、広域防災拠点としての活用も進めていただきたい。
- ・ 航空宇宙の次世代産業の振興については、今後、広域では、県がしっかりと主導的役割を果たし、われわれは用地等の面から後方支援をするといった、互いの連携が大切だと考えている。
- ・ モノづくりはもちろん、知識集約型の産業の分野でも、県で研究をしてもらい、ご指導いただければありがたい。
- ・ 小牧市は外国人率が知立市に次いで2番目に多い。治安や雇用の面からも、外国人児童の教育支援などについては、県が主導的役割を担うようお願ひする。
- ・ 少子化の課題解決策として、一番金がかかる大学教育の無償化を国がやるべきだ。財源の問題はあるが効果は大きい。また、本来は国だとは思いますが、県としても社会全

体で子どもたちの面倒をみるという大きな柱を示すべきだ。

- ・ ワーク・ライフ・バランスとの二つの柱で、私は、かなり少子化傾向は止まるはずだと考えている。市でやれることは限られているので、県で考えていただけることがあればお願いしたい。

(尾張旭市 水野義則市長)

- ・ 2030 年を展望したとき、尾張旭市は、愛知の産業を支える住宅地域としての役割を担うことになるだろう。南海トラフ巨大地震による震度想定や津波による被害等を考えた場合に、大変魅力的な住宅地であり、定住対策を進めるべき地域である。そうした中、一番の課題は少子高齢化である。駅や公園などのバリアフリー化、あるいは、名古屋市へつながる幹線道路の整備などに重点的に取り組み、利便性を高めていかなければならない。
- ・ また、県の森林公園を整備して活用したり、矢田川・天神川等の県の河川に散歩道やサイクリングロードなどを整備するなど、高齢になっても元気に生きがいを持って暮らしていけるまちづくりを進めていくことも必要である。
今後、住宅地域として魅力をアップできるよう、県の積極的な支援をお願いする。
- ・ これからは地域によって色付けをしていく時期だと思っている。県内全域で統一した仕組みが必要な施策も当然あるが、地域ごとにメリハリをつけた施策を誘導していただきたい。

(豊明市 石川英明市長)

- ・ 県全体でエネルギーの地産地消を考える時代になってきた。再生可能エネルギーをどう作り出すかということ県全体で考える必要がある。
- ・ 市町の独自性を生かした政策を打ち出し、域内経済を考えていくことをしないと、新たな財源を生み出すことは非常に難しい。そうした独自性を活かしたまちづくりという視点では、豊明市は医療関係で非常に大きなポテンシャルがある。
少子高齢化を受け、在宅医療・在宅介護などの福祉施策をきちっと充実させながら、異種業種がこうした分野に参画をし、新たな経済活動を生み出していくことが必要だ。

(日進市 堀之内秀紀副市長)

- ・ 住みやすさを重視したまちづくりに重点を置く中、人と物が大きく交流するインフラ整備と大胆な土地利用の緩和が必要である。都市計画道路名古屋瀬戸道路と日進インターチェンジの開設は、東名高速道路と本市をつなぐ道路として、産業の発展、地域の活性化が期待できる。ぜひとも早期の整備をお願いしたい。
- ・ 市役所周辺地域の市街化編入も目指しながら、これまで以上に積極的に市の中心核を形成する施策を進めていきたいと考えている。県には、最大限のお力添えをお願いしたい。

(長久手市 吉田一平市長)

- ・ 県には、リニモの安定運営のためにリーダーシップを発揮していただきたい。
- ・ 再来年の全国都市緑化フェアの開催を控え、市が協力して県道の街路樹や県の河川の植栽をぜひ進めていきいと考えている。よろしく願います。

- ・ 長久手市では、孤独死ゼロを目指していく。退職後のシニア層には、地域の中で、自分たちに何ができるのかを考えてもらい、役割を担ってもらうことを考えていきたい。県にはご指導をお願いしたい。

(東郷町 加藤浩副町長)

- ・ 商業の中核大都市名古屋と、モノづくりの中核西三河の間に位置する尾張東部は、地盤的にも地理的にも、災害に強く、人口の受け皿としてポテンシャルが高い地域である。東郷町、日進市、長久手市などでは、今なお堅実に人口が増えている。
- ・ 東郷町には鉄道駅がなく、一度も中心市街地を持たないまま、分散型都市構造を形成し、現在に至っている。超高齢社会への備えを進めなければならない今、集約型都市構造への転換が求められている。
- ・ そうした中、名古屋市と豊田市を結ぶ大動脈である国道 153 号バイパスや尾張東部地域を縦貫する主要地方道瀬戸大府東海線に近接した東郷町役場周辺で、大規模なまちづくり事業を進めているところである。県におかれては、この地域の特性を生かしていくための基盤インフラ整備をはじめ、関係施策のご支援をお願いしたい。

(瀬戸商工会議所 杉山仁朗副会頭)

- ・ 雇用創出と人材育成という視点から、平成 17 年度より、経産省の補助金を活用し、商工会議所が中心となってキャリア教育を進めてきた。3 年の補助事業が終わった後も、企業やボランティアの協力をいただきながら、職場体験や出前の職業講座など、地域の子供たちに、仕事の大切さ、職業観を学んでもらうための取組を進めている。
- ・ 瀬戸市は陶磁器のまちであるが、単に「器」だけでなく、「食」を前に出した「器」とのコラボレーション事業を打ち出している。たとえば、子どもたちが自分で作った器で、自分で焼いた瀬戸焼そばを乗せて食べるといった取組である。
ぜひ、せともの祭りにも皆さん来ていただき、瀬戸焼とともに、瀬戸焼そばを楽しんでいただきたい。

(春日井商工会議所 松尾隆徳会頭)

- ・ 県営名古屋空港の活用については、地元としても力を入れている。いろいろな規制もあると思うが、ぜひ柔軟な対応をお願いしたい。名古屋空港はセントレアの代替機能はもちろん、防災拠点にも活用できる。よろしく願います。
- ・ 地域の資源を活用し、人をいかに集める施策を打てるかが重要となる。その際、春日井インター周辺がよい例であるが、さまざまな規制が障害となってくる。どんどんと規制を緩和していただき、地域資源を活用できる施策をぜひお願いしたい。
- ・ 地元中部大学の学生に対して、地元の中小企業への就職を一生懸命働きかけている。県でも、大企業ばかりでなく、中小企業へ就職が進むよう、ぜひ支援してほしい。

(小牧商工会議所 成瀬哲夫会頭)

- ・ 少子化対策について、地方からも国を動かすくらいの施策が出てきてもいい。労働人口の減少も極めて深刻になっていくが、女性の就業率向上に向けた環境整備、例えば、待機児童の解消などは、企業だけでなく行政としても取り組む必要がある。
- ・ さらには、国レベルの施策の問題かもしれないが、海外労働力の自由化に向けた検

討も大きな課題である。

- ・ 高齢者の就労機会をつくり出すという施策も必要だ。70 歳定年制といったことを企業努力により行うのか、あるいは、もっと発想を転換し、国営企業、県営企業、市営企業などによる高齢者の就労機会の創出といった策も考えられる。
- ・ 産業空洞化対策として、グローバル競争上の弱点と思われるところを利点に生かした新産業の育成が必要ではないか。
たとえば、世界に先駆けて日本は高齢化社会に突入していくが、逆に、医療や介護分野の新産業を育成する。また、農業分野でも、小規模農業の生産性が極めて低いが、これも、モノづくりの生産技術との融合、農業の工業化による生産性の革新によって、より少量多品種な競争力を生み出していく、そういった考え方だ。
- ・ 国内経済の空洞化を懸念する向きもあるが、グローバル展開によって、むしろ中小企業の企業体制の強化を図ることに主眼を置いてはどうか。中小企業のグローバル展開に向けた愛知県の方針、具体的な方策について示してもらいたい。
- ・ 一方で、国内産業として自立している産業分野の育成にも取り組む必要がある。いわば、地域特産産業の育成である。県内の特産事業を県で統括して、ブランド育成、あるいは新産業の振興につなぐという取組も必要になってくるのではないか。
- ・ 県には、今後、新しい産業分野を展開していく上で、規制緩和に主導力を発揮していただきたい。
- ・ 新たな産業を展開していく上では、生活区域と生産活動拠点との分離、産業振興のための新たな用地の確保、あるいは経済特区構想の拡張、新交通システムの配置、さらには防災構想をも組み込んだ、総合的なまちづくりが必要である。これは、市を超えた、県、あるいはもっと上の道州制といった大きな行政区分で構想を作り上げていくことだろうと思っている。

(鳴海商工会 前川隆男会長)

- ・ 今年、区政 50 周年を迎える緑区は、国道 302 号や名二環が開通し、地下鉄も徳重まで延伸され、発展の目覚しい地域である。その一方で、東の豊明市へ抜ける幹線道路がまったくない。北の東郷町に向かう道路も細い道しかない。また、南に目を向けると、南区までは 2 車線ある国道 1 号が、緑区に入ると 1 車線になってしまう。
道路整備は、防災、減災の観点からも必要であるため、ぜひお願い申し上げる。
- ・ 緑警察署では現在 230 名の体制で市民の安心・安全を担っていただいているが、警察官の増員について、ご一考いただきたい。
- ・ 行政への届出業務に関して、5 年ほど前に唯一あった法務局の出張所がなくなってしまった。他の区に出向く必要があるので、行政の過疎地にならぬよう、お考えをいただきたい。

(有松商工会 加藤達芳会長)

- ・ 有松では、毎年 6 月に「絞りまつり」を開くなど、観光立町を目指しているが、高齢化が進み、全体に賑わいが少なくなりつつある。廃業する会員も多くみられるので、地域全体の再生を含めた、金融面、経済面での支援をお願いしたい。

(守山商工会 佐藤和利会長)

- ・ 守山では、リニア開通を視野に入れ、東谷山の自然観光ツアーを考えている。街路灯、トイレ等を整備し、また、農商工連携を進めながら、地域全体で活性化していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(豊明市商工会(愛知県商工会連合会) 森田哲夫会長)

- ・ 中小企業、とりわけ経営資源の確保が困難である小規模企業に重点を置いた施策を講じていただくようお願ひしたい。
- ・ 昨年制定した、県の中小企業振興基本条例に加えて、県内の各市町でも基本条例をつくっていただくというのはどうか。今後、検討していただけるとありがたい。
- ・ 豊明市は、東洋一の鉢物の花き市場があるが、卸関連だけで、産業的な面ではあまり効果が出ていない。豊明市では、このたび、「花の街とよあけ推進協議会」を立ち上げ、花きを中心にした産業立地を進めていきたいと頑張っているところである。また、鶏の大産地である豊明市として、豊明ひきずりの PR にも力を入れている。どちらも、よろしくご支援をお願ひする。

(東郷町商工会 近藤泰文会長)

- ・ 東郷町は、大部分が農業地で、調整区域であるため、大きな商業施設、大きな住宅街ができない。これが、市制を敷くまでの人口増につながらない要因だと思っている。
- ・ 市への昇格も展望し、現在、東郷町の中心部では、エコまちづくりということで、東郷町セントラル開発(土地区画整理事業)を国と県の指導のもとで進めている。
- ・ 景気の低迷の影響で、製造品出荷額、従業員数も減少傾向にあり、一事業者あたりの製造品出荷額も小さい小規模な事業所が多く立ち並ぶ状況にある。町の活性化を図るためにも、町と商工会が一体となり、セントラル開発をひとつの起爆点にして頑張っていきたいと考えているので、よろしくお願ひする。

(日進市商工会 福安克彦会長)

- ・ われわれ零細企業は、行政の支援や、金融での税務、ローンといった経営支援などを活用しながら、催事等の事業活動等を通じて、企業の活力と発展、地域の活性化に取り組んでいる。
- ・ 日進市は、平成 32 年には人口が 10 万人まで増加すると予測されている。県土、ライフラインを一日も早く整備をしていただくよう、よろしくお願ひする。

(長久手市商工会 加藤義郎会長)

- ・ 市内やその周辺地域への移動に、コミュニティバスなどの拠点ができれば、もっと便利になる。たとえば、リニモの駅がその拠点となり、中継地となれば、南北の移動もスムーズになるのではないか。
- ・ モリコロパークもリニモも農業試験場も観光資源である。現在、市に観光協会はないが、今後、市と調整をしていきながら、観光振興に取り組んでいきたい。
- ・ 孤立死をゼロにしていくためには、あいさつ運動が効果的だと思う。ぜひ、愛知県から全国に広げてもらいたい。

(尾張旭市商工会 服部正勝会長)

- ・ 尾張旭市は、昭和 45 年の市制施行当初から、特産品や観光など特に目立ったものはなかった。そうした中、最近、市では、“おいしい紅茶のまち 日本一”を掲げ、現在、紅茶によるまちおこしに取り組んでいる。平成 23 年 11 月には、日本紅茶協会から正式に、「おいしい紅茶の店」店舗数日本一として認定を受けたところだ。
- ・ また、商工会では、地域の産業、観光事業の広報・振興を目的として、「尾張旭市商工会特産推奨品制度」を定め、いちじく、プチヴェール、れんこん焼酎「だで」など、さまざまな特産品の PR を展開している。
- ・ 今後、こうした取組を行政、観光協会とともに積極的に推進し、魅力のあるまちづくりを進め、尾張旭市を全国に大いに発信してまいりたいと考えている。

(大村知事)

- ・ 今年は、梅雨の前半は空梅雨だったので、水がめが心配であった。先々週くらいからの雨のおかげで、木曽川水系は、ほぼ平年並みを回復している状況にあるものの、しばらくは、よく注視していきたい。
- ・ 愛知県議会は本日が最終日。提案した議案は全て議決をいただいた。その中に、新副知事の選任議案もあり、高尾副知事の後任に、県として初の女性副知事である、吉本明子氏を迎えることについて同意をいただいた。
担当は、高尾副知事と同じく健康福祉部と県民生活部である。厚労省雇用均等政策課長として、女性の就業や能力発揮を促す施策に実績を挙げてこられた方であり、今後ともよろしくお願ひしたい。
- ・ 各地で夏祭りや様々なイベントがあろうかと思う。ぜひ盛り立てていただきたい。
- ・ 愛知県政の運営に当たって、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。